

2013年度 第2回(通算 第246回) 幹事校会記録

日時：2013年(平成25年)9月18日(水) 15:00~17:25

場所：大阪産業大学梅田サテライトキャンパス(大阪駅前第3ビル19階)

出席(13校19名)：

追手門学院大学(田中耕二郎)
大阪音楽大学(大前哲彦)
大阪工業大学(疋田祥人)
大阪産業大学(山田全紀、谷田信一、西口利文)
関西大学(若槻健、広瀬義徳、原徹)
関西学院大学(岡本哲雄)
近畿大学(田中保和)
神戸国際大学(山本克典)
神戸女子大学(多畑寿城)
神戸女子短期大学(山村美穂)
四天王寺大学(八木成和、植田義幸)
摂南大学(朝日素明、吉田佐治子)
桃山学院大学(島田勝正)

議長：山田全紀

記録：多畑寿城

議事：

議事に入る前に、議長の山田全紀事務局長より今回の幹事校会については臨時として案内をしたが、通算第246回、2013年度第2回としたい旨提案があり承認された。本日の記録について、議長より神戸女子大学の担当としたい旨提案があり承認された。また、本日の議題として扱いたいとして、会長である大阪産業大学の学長交代に伴い現会長代行である瀬島順一郎氏が学長に就任したことにより同氏を会長としたい旨提案があり、異議なく承認された。次回総会において報告することとした。

(1) 2013年度第1回幹事校会の記録確認

資料に基づき前回の記録の確認が行われ、これを承認した。なお、次回幹事校会の日程については、記録にかかわらず10月30日開催に変更した。

(2) 全私教協理事会および各種委員会報告

西口利文理事より7月21日に開催された理事会についての報告が資料に基づいて行われた。配布の報告資料2.の表中7.予備費の備考欄「監視」を「関私」と修正する旨説明があった。

理事会から研究交流集会のテーマについて、記載される文言の検討を求められた旨報告があり、この件については本日の議題としている。

次に報告資料5.「次期(2014・15年度)担当会長校・副会長校・事務局校について」

の協議を行った。

近畿大学の田中保和氏より学内での検討状況について、副会長校については受ける方向で話が進んでいるが、その先（2016・17年度）の会長校と事務局長校の両方を受けることは学内承認が得にくい状況であるとの報告があった。

報告を受けて議論が行われた。阪神教協としては会長校と事務局長校を一緒にしたいとの話でもあり、近畿大学内では会長代行を置くことも検討したが、会長校は引き受けにくいとのことであった。

結論として、2014・15年度の副会長校及び2016・17年度の事務局長校を近畿大学とする旨承認し、2014・15年度の副会長校就任について理事会へ報告することとした。

またその他として、谷田信一教員養成制度検討委員より、前回の幹事校会で議論した「私立大学の特色ある教職課程事例集（仮題）」の刊行について、教員養成制度検討委員会での議論の経過などの報告があり、その後2013年9月17日教員養成制度検討委員会田子委員長作成資料を基に議論が行われた。次の様な意見が出された。

- ・単なる大学PRや自己紹介的なものでは意味がない。
- ・阪神教協での意見を吸い上げて委員会で検討されるのか。→ 検討はされるはず。
- ・理事会では田子委員長作成の配布資料は承認されているのか。→ 委員会承認はされていると理事会で報告があった。理事会では10月5日の理事会で具体案を出すのでそこで審議してほしいとのことであった。
- ・教員養成制度検討委員会の「仕事」としてこの事例集を出す意味は何なのか。
- ・事例集を出さないという選択肢はあるのか。等々

議長よりこの議論は次の議題にもつながるとして、次の議題へつなげて議論することとした。

(3) 全私教協研究交流集会の企画運営について

前回幹事校会とその後のメーリングリストでの意見交換を踏まえて7月の全私教協理事会へ報告したことに基づいて作成した企画案について、事務局の西口利文氏より配布資料に基づいて説明があった。

企画趣旨は理事会で承認の方向で受け止められているが、サブテーマの文言が文科省関係者を招いての会なので、文科省に対立するようなテーマを掲げることになるのではないかとの懸念の声があり、再検討の要請があったので本日配布案を提案することとした旨の説明があった。

基調講演講師及びシンポジウム提題者について、研究交流集会のテーマ、講演のテーマ、シンポジウムのテーマを見据えたうえで、種々意見交換、議論、提案が行われ、第1部講演：土屋基規氏（宝塚医療大学）、第2部シンポジウム提題者：文部科学省関係者、岩田康之氏（東京学芸大学）、蔵原清人氏（工学院大学）を阪神教協原案とすることを承認した。意見があれば10月5日の理事会までにメーリングリストで連絡することとし、本日の議論を踏まえた企画原案を事務局において作成しメーリングリスト

で連絡することとした。

テーマについては議論の結果、サブテーマの文言について提示の原案から変更し、研究交流集会のテーマ案として、『開放制教師教育の方向を見定めようー私学における教員養成の特色とは何かー』とし、講演、シンポジウムのテーマについては削除しテーマを一本化することを承認した。

司会者については、メーリングリストを通じて意見を募ることとした。

(4) 2013 年度第 2 回および第 3 回課題研究会の運営について

議長より第 2 回課題研究会については、研究交流集会と同テーマで前もって行っておきたい旨の提案があり、議論の結果テーマを『私立大学における教員養成の特色とは何か』とすることが承認された。

さらに事例報告については 5～6 校、各 30 分程度とすれば、教員養成制度検討委員会の事例集の出版にもつながるのではないかとの提案があった。

事例報告する大学の候補について議論の結果、大阪音楽大学、武庫川女子大学、関西大学が挙がり、他の候補について教員免許事務セミナーからの推薦も含め、10 月 2 日までに事務局へ連絡することとした。

第 3 回課題研究会について関西大学の原氏より、実地視察を受けた大学からの報告及び課程認定申請を行った大学からの報告を中心に検討しており、次回の幹事校会で原案を提案する旨の説明があった。日程は 12 月 18 日（水）が候補日。

(5) 阪神教協リポート編集について

特になし

(6) 阪神教協教職課程データベース（平成 25 年度版）について

参考資料として昨年度のアンケートについて配布され、議長より原案については次回の幹事校会で諮る旨報告があった。

また関西大学の原氏よりこのアンケートについて、加盟大学の負担が大きい等の声も多く、基本的事項（設問）については 3 年ごとの設問とし、数値データなど毎年変わるものについては毎年の設問としたい旨の考え方を示され、次回幹事校会で設問項目も含め正式に提案したい旨の発言があり、了承された。

(7) 事務局報告、会費納入状況及びホームページ管理運営等

特になし

(8) 今後の記録担当について

次回以降の担当については、本日欠席の大学もあることから会の都度決めることとした。

(9) その他

近畿大学の田中保和氏より次期全私教協副会長校について 10 月 5 日の理事会に諮るということであるが、学内決裁手続きの時期との関係から、さらに先の理事会でお願いできないかとの依頼があり、了承した。

さらに、追手門学院大学の田中耕二郎氏より、課程認定申請において「教科に関する科目」として開設する科目を学科の卒業必修としなければ認めないということになっているとの情報の真意について質問があり、関西大学の原氏より、そのようである旨回答があった。